KSKS 花の会ニュース

２０２１年１月号
no.187

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB http://www.hananokai.info/　★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円

第１１回　花の会作品展 の上位入賞作品

2020 年 12 月 22 日(火)～2021 年 1 月 4 日(月)、
ＪＲ高槻駅前「えきちかギャラリー」にて、展示を行いました。

銀賞　「桜 並木」
田寺 淳

金賞 「ねこ」
城 幹人

銀賞　「おやゆびひめ」
Ｒ．Ｏ

銅賞　「あめちゃん」
Ａ．Ｋ

「他人に迷惑」とは?

先日、新聞の書評欄を見ていると、若い人の行動基準として「他人に迷惑をかけない」ことが最も多いとの記事があった。高齢の方の意識としても同じく「他人に迷惑をかけない」ことは昔から、親御さんから言われていたことで、基本、同じであるのに、どうして世代で考え方、感じ方がこんなに違うのだろうとの疑問が投げかけられていた。記事では、昔はその前に一人前の大人になったら「自分で責任を取れることは、何をやってもいいが」というのがあって、その後に、しかし「他人に迷惑をかけない」と続いたもので、今は、前文がなく、後の文言だけが一人歩きをしている、と指摘していた。そのことが、今でいう「自己責任」という言葉の背景にあるから、人の行動について厳しい「否定」「批判」が表面だって来る時代となっている、というのである。

以前に中東で取材するジャーナリストに「自己責任」を問う、厳しい世論が沸騰したことがある。正義の念をもって行動しても「他人に迷惑」がかかることはするべきでなく、自分で責任を取るべきだというのである。後に、世界の世論との食い違いが明らかになる中で、自己責任の議論ははぐらかされるようになった。

アフガンで亡くなった中村哲氏の報道は、衝撃的であった。正に、自己責任を全うした?のであろうか。現地の人たちが守り切れなかった想いを語る報道を聞く中で、そのような危険な状況を作り出しているのは、正しく世界の体制であり、それを何とかしたいと願っての中村医師の行動であることは、周知のこととなっている。

他人に迷惑をかける行動は、他人から非難される。だから、非難されそうな行動はやらない。他者の行動もそのような眼で見てしまう、バックグラウンドの狭さが際立つ時代となった。当事者への眼も、きっと厳しいと想像される時代、支援はメンバーに届くだろうか。

（やまだのかかし）

日中活動支援の報告　生活介護

「はなみずき」が開所しました

～ 皆さんに喜んでもらえるお菓子、パン、給食を目指して ～

2015 年から構想を重ねてきた、花の会の新しい生活介護事業所「はなみずき」が 2021 年１月、無事に開所を迎えることができました。これも一重に皆様のお力添え、ご協力があってのことです。ありがとうございました。

「はなみずき」ではこれまでのパン製造、菓子製造に加えて、新たに生産活動として給食に取り組むことになりました。メンバーに力を借りて、美味しいお菓子、パン、給食を作っていきたいと思います。

事業所名の「はなみずき」についてですが、当初は「第５共働舎花の会」という名称で進めてきましたが、話をしていく中で「施設っぽくていやや な」「５番目ってなんかね」といった意見があり、「メンバーやワーカーに決めてもらおう！！」ということになりました。そして、いろいろな意見が出た中から、「はなみずき」という名前に決まりました。ただ、決まった時期が遅く、正式名称は「はなみずき」と伝えても、「えっ？第５共働舎じゃないの？」「第５共働舎はどこいったの？」と誤解をされている方が多いので、この機会にぜひ覚えていただけたらと思います。

それ以外にも、建物の壁の色や中の壁紙、扉の色などもメンバーと相談しながら決めていきました。口頭だけだとわかりづらいので、視覚で分かるように写真サンプルを準備したのですが、はじめは選択肢を多く用意しすぎて、意見がバラバラになってしまい、集約するのに苦労しました。（汗）そういったことを繰り返しながら私自身も聞き方を工夫するようになり、メンバーが自分達で選んだ色を取り入れることができました。建物ができ上がってくるにつれ、「壁の色はピンク」と嬉しそうに周りの人たちに報告しているメンバーの様子を見て、私自身も嬉しくなりました。

まだ、スタートして間もないですが、地域の人達から声をかけてもらえるような「はなみずき」を目指して、メンバー、ワーカー共に頑張っていきたいと思いますので、応援をよろしくお願いいたします。　　（はなみずき　菊地　宏周）

はなみずき

住所：〒569-1042
高槻市南平台３丁目 28-15
電話：072-669-8532
FAX：072-669-8533
定員：30 名

バス通りから見た「はなみずき」、
メンバーと選んだ、ピンクの壁が特長です。

メンバー・職員で
「はなみずき」のことで打ち合わせする様子

日中支援雑感　今、できること

○ 予期しなかった、コロナ禍

今のコロナ感染拡大の状況を誰が想像できたでしょうか？花の会の最大イベントの「花の会バザー」や「一泊研修旅行」など全ての行事等が中止になり、地域との関わりも最低限になっています。メンバーやワーカーのモチベーションをどのように上げて、どういう風に活動したらいいか、もどかしい思いが続いています。

○ マスク着用、手指消毒も少しずつ定着

この間メンバーも、感染防止のために手洗い・うがい・マスクの着用が必要になりました。最初は戸惑っていたメンバーも、今では自ら手指の消毒を行い、店舗では消毒スプレーを持って「消毒してください」とお客さんに声をかけるようになりました。

今でも時々、おでこにマスクをしているメンバーがいます。彼女は、マスクを外してはどこかに置いてしまい、どこに置いたかわからなくなっていました。しかし、彼女なりにマスクが紛失してしまうのを防ごうと考えたのでしょう、マスクをおでこに一時避難しています。そうすることでマスクの紛失は少なくなりました。

「メンバーは、この降って湧いたような事態を理解するのは難しいのでないか？」と決めつけていたのは、私たち支援者の方でした。メンバーに丁寧に説明し、日々の活動の中で実践することで、メンバーそれぞれが状況を理解し、その人なりに「新しい生活様式」を身に付けていきました。

○ 手作りマスクもたくさんいただきました

それだけでなく、世間で手作りマスクが出始めた時に、手先が器用なメンバーが一針ずつマスクを縫い、でき上がるとみんなに配ってくれました。ご家族の方からも手作りのマスクを頂き、マスク不足に困ることはありませんでした。地域の方も、手作りマスクを提供してくださり、店舗で販売することができました。

○ 「花の会秋祭り」、みんなの笑顔であふれました

日中活動では、なんとか行事ができないかと「花の会秋まつり」を提案したワーカーがいました。その提案にメンバーやワーカーが協力して開催でき、みんなの楽しそうな笑顔が見られました。一人の声に周りが賛同し、一つずつ積み上げました。手作り感いっぱい、みんなの笑顔いっぱい、花の会らしいほのぼのとした秋まつりでした。

ひらがなカードを並べ替えて
完成させた「はなみずき」

○ これからも、“つながり”を大切に活動を継続していきます

「“つながり”が切れてしまうのではないか？」という心配をしていましたが、多くの方が「花の会」に力を貸してくださったこと、そして、メンバー、家族、職員等花の会全体で力を合わせて、活動を継続できていることに改めて感謝いたします。普通の日常生活が送れるように、引き続き、今できることをみんなで考えていきたいと思います。　（第４共働舎花の会　前田　恵津子）

訃　報

2020 年 12 月 28 日（月）に、第４共働舎花の会チューリップの開所直後から長年ボランティアで一緒に活動していただいた、**浅野しずきさん**(享年 80 歳)が急逝されました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

児童支援の報告

第３回 人権・権利擁護 虐待防止研修の報告

意見交換を通じ、いろいろな見方があることを実感しました。

2020 年 11 月 18 日（水）、今年度３回目の人権・権利擁護　虐待防止研修（講師：（一財）フィールド・サポート em.代表理事：栗原氏）があり、児童部門だけではなく、レスパイト（短期入所、日中一時支援）の職員も一緒に受講しました。

今回の研修では、３事業所から事例を２つ挙げ、事例検討を行いました。担当職員からの報告後に質疑応答。意見交換では児童のこと、その背景にあることをより理解しようと、積極的に質問、対応策、具体的な手段、違った角度からのアプローチ方法などの意見も出ました。同じ児童関係でも、他事業所の職員が集まることで、いつも接する職員とは違った視点からの質問や意見交換ができ、とても参考になりました。

何故、困難な事例をあげ「支援検討」することが、「虐待防止研修」になるのか疑問を感じることもありましたが、「困難・課題→本人の困りごと」と変換し、利用児童の人権を守り、成長のサポートができる安心で安全な環境（主に人的環境）を作ることが、結果児童の特性の理解につながること。虐待の芽を摘むため、職員一人で抱え込まず、悩むことがあれば発信し、支援者間で共有することによって、視点・見方が変わり対応策などが見えてくることを再確認しました。

本人の困りごとへのアプローチは、本人中心の支援、しいては意思決定支援に大きく関わってくることです。今年度取り組んでいる外部講師の方を招いての研修も、残すところあと２回となりました。次回は「（以前）事例検討したその後」について学び、考えることになっています。１つひとつの困りごとを長い視点で、そして本人の意思を尊重していけるよういろいろな角度からのアプローチ方法を皆で考えることを楽しみにしています。

（あじさいクラブ　山下　由香）

リレーコラム「８年で感じたこと」

今後も、『影響しあえる関係』で向き合っていきます。

この事業（児童発達支援・放課後等デイサービス）が始まり８年が過ぎようとしています。

３、４歳で利用された方が 11、12 歳になられる年齢に達します。この８年で何か変わったことがあったでしょうか。

子どもたちの成長は、やはり目を見張るものがあります。子ども・職員の関係が、支援される側・支援する側でなくお互いに影響しあい、伝えたいこと、伝えようとしていることをしっかりキャッチしてぐんぐん成長されています。この「お互いに影響しあえる関係」は、子ども・職員間だけでなく、子どもたち同士でもしっかり引き継がれているように思います。

さあ、職員はどうでしょう。私たちの仕事は「サービスの提供」ではなく、心を込めてお互いに影響しあう仕事だと再認識できた８年でした。子どもたちに気付かされた部分・・優しさ・素直さ・思いやり等、心の問題ですが、しっかり心に留めて日々、一人ひとりに向き合い続けていきたいと改めて感じました。

（あじさいクラブ　中川　朱美）

地域生活支援の報告　グループホーム

フラワーホーム開所 23 年目

メンバーとの関わりに喜びを感じながら、いっしょに働きませんか？

昨年は、フラワーホームの運営にご理解、ご協力いただきまして、ありがとうございました。

恐らくいくつかの新年のあいさつの紙面で、コロナについて書かれているのではないかと思うのでフラワーホームでは別の話題を提供しようと思います。

○　４月に新ホームがスタート、職員定着の課題にも取り組んでいきます

2021 年は４月に、建設中の新ホームを開所させます。完全新ホームということで、５名募集しています。世話人も募集していますが、なかなか応募が来ず、派遣会社を頼りにせざるを得ません。現在フラワーホームでは、派遣会社から来てくれる世話人の比率が多くなっています。年々、派遣会社の職員が増えており、現時点でフラワーホームの全職員数の内、40%が派遣会社の職員になっています。特に女性の世話人は 50%となっています。

派遣会社を利用し始めたのは2015年度からになります。中には初日だけ出勤されましたが２日目からは音信不通になった方、採用はしたけれど辞退された方等々、これまで求人誌やハローワークで求人した人も含めて面接、採用を行ったのはこの５年程度で 112 名になります。現在のフラワーホームの職員数よりも多いのに驚きです。

当然のことながら、採用した全員が定着しておらず、2015 年に採用され、現在も継続して勤務していただいている方は 42 名になります。この比率は 37%になります。因みに、現在の職員数が 70 名なので 60%が経験年数５年未満となっています。世話人同士でも、定着させるにはどうすればいいのか、人材育成、ＯＪＴ（法人では、「ジョブメンター」制度といいます）を丁寧に行おうという意見が出ていますが、ＯＪＴを行う職員の育成やカリキュラムに沿った一定の研修を行うなど、職員定着に向けての改善をしていく必要があります。

○　虐待防止など、支援の改善にも取り組みます

2020年度は２件の虐待事案がフラワーホームで発生しました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、１件は閉じ込めを含めた身体的虐待、精神的虐待、ネグレクト。もう１件が経済的虐待になります。メンバーに対して悪意があったのではなく、最初から虐待を行うような職員ではなかったはずです。メンバーとの関わりに楽しさや喜びを感じていたはずだと思います。現在もメンバーに必要な支援が提供できるように改善に向けて取り組んでいますが、こういった職員に対して、面談やフォローができていなかったのも虐待につながった一因だと思うようになりました。経験や慣れからくる「知っていて当たり前」は安易すぎますし、１を知って 10 を知る職員は稀です。知っているかもしれないけれど、カリキュラムや人材育成マニュアルに沿って行っていくことが大切だと思います。

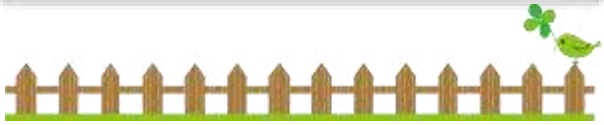
フラワーホームが開所されて23年目になりますが、これからも地固めをしていきます。まだまだ、足らない部分が多く、失敗も多いですが、こんなフラワーホームに興味を持たれた方、協力してみようと思われる方がいましたら是非、共に働きませんか？

「こんな」フラワーホームですが、2021 年も職員同士協力してより良い地域生活を提供できるように努力していきますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。（フラワーホーム　徳野　裕季）

訃　報

2020 年 11 月２日（月）に、２年に渡り闘病されてきた、グループホーム「ひなげし」の**上原　久美子さん**(享年 50 歳)が逝去されました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



☆大　掃　除　しました☆

汚れの“段階”を知って、早めに清掃しましょう！！

2020年12月、「やらなければ」と思いつつも先延ばしにしてしまっていた大掃除を実施しました！

現在グループホームでは、日勤体制の強化や二人体制の導入などを進めています。その中で協力して業務に当たることの一環として大掃除を選び、実施させていただきました。「さあ、掃除をするぞ！」という目線で見ると、普段は気付けない汚れに気付けてしまいます。ここも、あそこも、こんなところまで！？恐怖ですよね。とにかくホコリが憎い！油分と協力されると厄介なことこの上ありません。文句を言っていても始まらないので気合いを入れて掃除を始めます。

まずは上の方からホコリを落としていきます。食器棚の上、カーテンレール、スチールラック、テレビの裏。もれなく汚れていました。台所兼リビングではホコリが油を吸っているようで撫でた程度では落ちてくれません。文明の利器（住まいの洗剤とメラミンスポンジ）を要所で使用し汚れを落としていきます。最後は掃除機、雑巾をかけて完了です。半日かかったのに、文章にすると数行で終わってしまいました…。

そこで！今回は「汚れの段階」をご説明させていただこうと思います。私は前職で某飲食店にて勤務していました。チェーン店でしたが、その親会社が清掃関連の事業を展開していたこともあり、清掃に関する研修に何度か参加させていただいていました。ご存知の方もいらっしゃるでしょうが、「汚れ」には大きく分けて４つ（５段階とする場合もある）の段階があります。軽度のものから順に説明します。

１段階：「付着」、汚れ、ホコリが乗っている状態。乾拭き、水拭き等で直ぐにきれいになる状態です。

２段階：「吸着」、汚れ、ホコリが水分などを吸って文字通りくっついている状態。乾拭きやホコリ叩きでは取れなくなってしまいます。

３段階：「粘着」、汚れが固まって付着している状態。除去するには洗剤が必要となり化学反応で落とす必要が出てきます。いわゆる頑固な油汚れですね。

４段階：「染着（せんちゃく）」、汚れが素材にしみ込んだ状態で、除去するには研磨などが必要になる段階です。

５段階では汚れを落とすことが不可能になり、素材自体の交換が必要となります。いかに「付着」「吸着」の段階で汚れやホコリを取ることができるか。普段の掃除の大切さがよくわかります。

やはり、ホコリとストレスは溜めないに限りますね。動きは悪くなるし、取れにくくなります。定期的なリフレッシュを心がけていきたいものです。

全体のビフォーアフターの写真を撮っていなかったので、トイレの換気扇の前後の様子を載せています。

清掃前、積年の汚れとはこのこと

分解清掃後。ここまで変わると気持ちいい

完了！

清掃前は換気扇の音が気になっていましたが、ホコリを除去することで、改善されました。

（フラワーホーム世話人　立岩　信亮）

レスパイトより

～　年末年始、いかがお過ごしでしたか　～

今年も、みんなで楽しいこと、新しいことにチャレンジしましょう！

謹賀新年

旧年中は、花の会短期入所事業部（レスパイト）をご利用いただき、厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて皆様、年末年始をどのようにお過ごしになられましたでしょうか？昨年はコロナウイルスの影響で“ステイホーム”と言われ、外へのお出かけが少なくなりお家で過ごすことが多くなりましたね。そのせいで、“コロナ太り”という言葉も出てきました。そして体を引きしめるタイミングもないまま年末年始を迎え、“正月太り”に突入してしまいましたね(笑)。大みそかにこの文章を書いているので、お正月明けの皆様のお顔はまだ見ていませんが、ふっくらしたお顔になってないでしょうか？アンパンマンのような丸顔になってないでしょうか？ともあれ皆様がお元気でいてくだされば何よりも嬉しく思います。今年もレスパイトに来てお散歩でしっかり歩きましょう！お泊りで腹筋やエクササイズ、ストレッチもやりましょう！職員も一緒に頑張りますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

写真は、クリスマスケーキを作ってみんなでクリスマスパーティーをした時のものです。クッキングを手伝いたくてウキウキしている方、みんなの中には入れないけどめっちゃ気になって少し遠めからしっかり見ている方など様子はさまざまですが、食べるのはもちろん全員参加でした。（笑）もう一枚の写真は、グループホームに入所されることが決まった方の“お別れパーティー”です。（グループホームに入所されると制度上、レスパイトは使えなくなります）利用者の皆さんはよく「レスパイトの卒業やなぁ」と言われています。確かに、“レスパイトをやめる”というより“卒業する”の方が寂しさが少なく感じ、「頑張ってね！」ってエールを送りたい気持ちになるので“卒業する”という皆さんの発想が僕はすごく好きなんです。「卒業おめでとう！新しい生活を楽しんでくださいね。今まで本当にありがとうございました。」　　（レスパイト　廣橋　孝之）

就労相談支援の報告

私　の　し　ご　と

高槻市障がい者就業・生活支援センター　サテライト
永松　雅子

2020 年３月末で第３共働舎花の会 就労移行支援事業が廃止となり、新規事業準備室としてスタートしましたが、現在は「高槻市障がい者就業・生活支援センター」のサテライトとして、新型コロナウイルスにより職業生活リズムの崩れる恐れのある方への支援をしています。（大阪府生活支援強化事業）

利用されている方は現在のところ、７名です。それぞれ自分のしたいことをしたり、みんなでゲームをしたりして過ごされています。月に１度はみんなで何をするか決め、イベントを開催しています。11 月は感染予防に配慮しながらユニバーサルスタジオジャパンに行ってきました。そのほか、就労継続の支援として、企業との調整や生活の相談等も対応しています。まだまだ新型コロナの感染が収まりません。感染対策にメンバーと一緒に考え取り組み、元気に就労が継続できるよう支援していきたいと思います。第３共働舎花の会の卒業生に限らず、利用者募集中です。

サテライト　連絡先
電話　：　072-662-1233

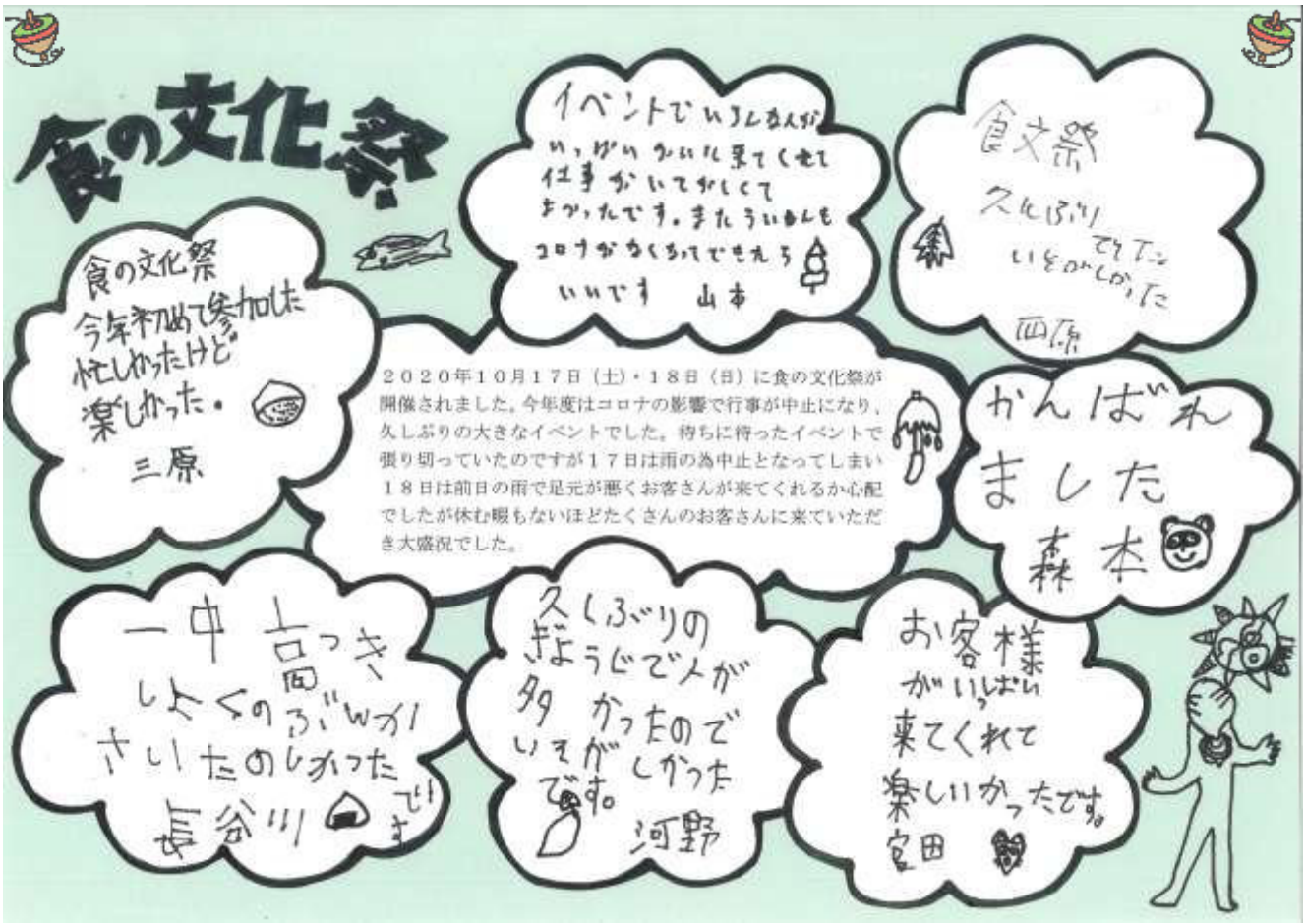
『新型コロナウイルス感染症』と「はいびすかす」

新年おめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大で利用者・ヘルパーとも緊張の日々を強いられました。なんとか無事健康で年末を迎えることができるかと思った矢先の 12 月 30 日、利用者宅を訪問したガイドヘルパーから利用者の体調不良の連絡を受けました。救急搬送された三島救命救急センターでコロナ抗体検査は陰性でしたが、転送先の総合病院でもＣＴ撮影、ＰＣＲ検査を実施しました。ＰＣＲ検査は結果が判明するのに１日～2 日が必要とのことで、その間ヘルパーも自宅待機となりました。万一陽性だったらと、いろんな状況がよぎりましたが、陰性の連絡を受けた時は本当に安堵しました。

「はいびすかす」の業務は、利用者の外出支援が大半です。コロナ感染症が蔓延すると、利用者は楽しみである外出ができなくなり、「はいびすかす」も事業運営に影響が出てきます。「はいびすかす」では、利用者の意向に沿う支援を行い、ご希望通りの外出を受け入れております。ヘルパーには感染予防の徹底を指示していますが、万一感染したらどうする？と頭を抱え、無事を祈りながらの日々です。

今回の新型コロナウイルス感染症では、世界中が恐怖にさらされています。日本でも昨秋以降の感染再拡大で不安な日々となっています。一日も早く、以前の日常が戻ってくるのを願うばかりです。　（はいびすかす　三原　道恵）



交流の場『Magic　Hour』その後

関係機関の皆様のご協力とスタッフのサポートで、お陰様で３回目の開催を迎えることができました。累計で当事者７名・支援機関６名の方に参加いただいています。第１回目から継続して参加くださっている方もあり、私達もとても親しみを感じています。

今回いいタイミングでフォルツァのメンバーさんから「アシスタントをしたい」との希望をいただき、初参加していただきました。普段通所しづらいメンバーさんと、人見知りをされるメンバーさんが参加してくださったことに驚きました！お二人とも普段とは違った雰囲気の中、恥ずかしがり屋なのにYouTube のリクエストを募ってくださったり、専門職を活かしコートをお預かりする声掛けをされたりと、私達が気付かない心遣いを見せてくださり、勉強になりました。何よりもイキイキされていることが本当に嬉しかったです！

では、ここでお２人からひと言♪

【カオス３代目さん】

マジックアワーに参加される方は日常生活に疲れては悩み、苦しんでいる人達だと思っていましたが、実際は皆さんとても元気で力強く、自分をしっかり持っておられて元気づけられました。とても面白く楽しい時間が過ごせました。又参加させていただきたいです。

【レイさん】

準備は大変だったけど、来てくださった人が楽しそうにしていたので楽しかったです。

カオス３代目さん、レイさんありがとうございました！いろんな方のお力を借りながら、これからも細く長く続けていければと思います。

（フォルツァ　吉田　小百合）

三島地域若者サポートステーション
「サポステ生会議」

2020 年度の「地域若者サポートステーション事業」の広報に、元 AKB48 の高橋みなみさんが起用されています。

サポステの広報の一環として、高橋みなみさんに出演していただき、「サポステ生会議」を行いました。北は北海道、南は沖縄までの全国 13 か所のサポステ職員と一緒に、三島サポステも出演しました。

「サポステ生会議」では、社会の広告社の山田英治さんと高橋みなみさんが司会を行い、サポステの事業内容や、広報の取り組み方などについて説明をしていただきました。各サポステの職員も、それぞれのサポステで取り組んでいる内容について説明を行い、事前に募集していた若者の相談にサポステ職員が答えさせていただきました。

「サポステ生会議」の様子は、YouTube に現在投稿されています。お時間があれば、YouTube の検索画面で「サポステ生会議」と検索いただくと、動画視聴できます。

今後、三島サポステとしても、取り組みを発信していきたいと思い、これまでは公式 LINE だけでしたが、12月下旬にInstagram、Facebook、Twitter を始めました。まだ、立ち上げたばかりで発信できていませんが、少しでも活動が広まればと考えています。

通常サポステは学生の利用ができませんが、2021年１月～３月は、高校、専門学校、大学卒業後の進路が決まっていない人に限り、サポステの利用ができることになっています。卒業後の進路に悩まれている方は、三島サポステに連絡いただけたらと思います。

（三島地域若者サポートステーション　安岡　大輝）

「自立支援協議会 計画策定ワーキング」に参加して

2020 年夏から計５回、高槻市自立支援協議会の計画策定ワーキングに参加させてもらいました。第２次障がい者基本計画、第６期障がい福祉計画及び第２期障がい福祉計画の策定のためのワーキングチームです。メンバーは当事者・障がい児者団体、事業所連絡会、学校関係者に加え、自立支援協議会のワーキングが入り、進路・就労ワーキングから私が参加しました。定着支援や、離職後の再チャレンジ、復職、大学在学中等の訓練ニーズの高まり、そして再訓練や就職活動支援などの必要性を伝えました。相談支援とネットワーク充実の重要さ等も発言させてもらいました。

情報アクセシビリティの議論もありました。アクセシビリティは利用のしやすさであり、障害によって情報を得られないことがないようにしていく必要があります。逆の視点で言えば、今回の障害福祉計画を市民に知ってもらうことも大切で、分かりやすい表記にした方が良いという意見も出ていました。

やはりお互い知り合うことが大切で、私は、就労はお互いを知り合う良い機会になると考えています。最近 IDEA モデルという超短時間雇用が話題ですが、フルタイムでなくても短時間で働き、作業所にも通う生活スタイルが広がれば、お互いが知り合う機会も増えると思います。

就労支援は日常的で最も効果的な啓発活動というのが私の持論です。そして「障がいのある人もない人も共に働き共に学ぶ社会の構築を目指します」が当センターの事業理念であり、単なる就労支援だけでなく、相互理解が深まる支援を大切にしたいと思いました。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター　陸野　肇）

法人の報告

理　事　会　の 報　告

最近の理事会は７月、８月、９月と（仮称）グループホーム大和の建設に関係する決議、「ひらかた くすの木」の建て替えに関する決議などがありました。11 月には、グループホーム「ひなげし」移転に伴い、国庫補助を受けていたスプリンクラー設備の財産処分や職員の懲戒処分などについて決議しました。職員の懲戒処分については、これまで、口頭での注意や昇給の停止、始末書の提出等の対応はありましたが、今回は初めて正式に、虐待事案に対する職員並びに理事長を始めとした管理監督者について、主に減給処分を行いました。

今月は評議員会も控えています。新型コロナウイルスの感染が拡がり会議の開催について悩ましいところです。迅速な意思決定と理事、監事、評議員の合意形成を今後も心がけていきます。

（業務執行理事　成瀬　修）

法人運営協議会　の　報告

第１０回目の法人運営協議会を１１月１７日（火）に開催しました。新型コロナウイルスへの対応、虐待通報事案の説明、「はなみずき」の開所について、「ひらかた くすの木」の建て替え、（仮称）グループホーム大和の建設について審議をしました。

またフラワーホーム（グループホーム）の満足度調査の集計結果について報告がありました。メンバーからの調査、ご家族からの調査共に、ホーム（世話人）によって、支援の質に大きなバラつきがあることがわかりました。この調査結果をどうやって活かすのか、世話人の感想が聞きたい、など参加者から意見がありました。メンバー、ご家族から貴重なご意見を頂いたので、支援の向上に役立つよう、事業運営に答申しています。

（業務執行理事　成瀬　修）

メンバーから届いたお手紙を紹介します。

花の会の方々へ

お久しぶりです。覚えていますか？９年前の花の会から○○○○に就職した“みんみん”こと、宮本洋です。（今は、“みんみん”と”ミュー“の２つのキャラでやってます）

さて、昨年に「みんなの会」とともにピープルファースト全国大会へ行ったのですが、ピープルファーストの分科会においては、事件のことなど暗い話だったので、今度は僕が今の生活（仕事、生活、余か、移動など）について密着してほしいと思い、生（なま）の生活そのものを取材し、１人の当事者として、今の新型コロナ禍でもがんばる１人の姿を取り挙げてほしいと思い、約 25 分間の活動動画として、何回かに分けて動画を撮ってもらい、がんばっている姿と地域で活やくする生（なま）の姿を見て、視ちょう者やピープルファーストの参加者の人に元気になってほしいという思いから、花の会の１人として、１人の当事者として取材してほしいと希望しました。

「新型コロナ禍でもがんばるミュー」というタイトルで希望し、エンディングテーマ曲も設定。

今度はとても明るい分科会になるだろうと思い、その思いで、今回希望しました。

それでは、よろしくお願いいたします。

次のみんなの会のレジメ用紙にその旨を伝えてほしいと思います。

2020 年 11 月　友花会　宮本 洋

虐待防止委員会の報告

第 11 回目の虐待防止委員会を 11 月 25 日(水)に開催しました。第２共働舎花の会、フラワーホームの改善報告について進捗状況を確認しました。第２共働舎花の会については、業務振り返りチェックシートを２か月に１回実施、結果を支援者間で共有。支援者に対して個別面談を年４回実施などの報告がありました。委員から防犯カメラを設置することなどの提言があり、早急に設置することになりました。

新たに虐待通報の案件が２件あり、報告を受けました。１件は、３年前にグループホームの世話人がメンバーを蹴っているところをガイドヘルパーが目撃していたと、メンバーの家族から伺い、虐待通報をした件。もう１件は、元就労移行支援事業所の職員が就労後のメンバーや家族から金銭を借り受けて返済していない件が発覚し、虐待通報をしたと報告がありました。（本原稿を執筆している 2021 年１月現在、グループホームの件、金銭を返済していない件とも、行政の調査の結果、不適切なかかわりという認定になりました。金銭については、本人が全額弁済をしています。）

また第三者委員による事業所巡回の結果の報告がありました。生活介護のメンバーと４か所のグループホームのメンバー、世話人から聞き取りをした第三者委員として感じたことの一部をご紹介します。下記の意見について、参加者で世話人の育成方法の改善や運営方法の改善について意見交換を行い、グループホーム管理者からは、更に改善を進めていくことが表明されました。　（虐待防止委員長　成瀬　修）

第三者委員の聞き取りと意見

- メンバーが他のメンバーに嫌なことをされた時に、注意してくれるワーカー、注意してくれないワーカーがいる。メンバーの思いに気付いてほしい。
- 世話人から、仕事の大変さ、家族への対応、夜に眠れない、対応に追われ落ち着いて過ごせない、という意見があった。世話人は一人で勤務している。指導、助言ができるサビ管が入る必要がある。
- しんどさがマヒしている。仕事は減らず、しわ寄せがくる。
- 組織が大きくなると不安はあるが、分かち合いながら皆で大きくしていけるようにチャレンジし、一緒に考えていこう。
- 量より質を確保しながら拡大していくのは難しい。
- 労働環境、連泊すると判断しづらくなるので他人事ではない。限られた人間関係で孤立しやすい。相談しづらいので複数名の勤務体制が必要。複数名いることで手を止める可能性もある。
- コロナ禍だから虐待が起こる、という考えが甘い。仕事として行っているというプロ意識を持ってほしい。
- メンバー支援に加えて虐待をした職員への育成、指導的世話人がつぶれるのではないか心配になった。
- 排便の対応で便まみれになることもあって大変だが、続けたいと言ってくれた世話人もいる。
- 勧告を受けないような運営ベースを作ってほしい。

法人が向かう先

2021 年を迎え、法人職員の全体での集まりが持てなくなった。今後をどのように進めるのか、議論する場が少なくなり、理事会や事務局会議（月１回の事業統括者レベルの会議）、事業運営会議（事業管理者の会議）等で協議している。各事業所では、月々の会議・研修が何とか維持されている状況です。

さて、事業の展開という点では、ある程度、明快に方向性が共有できるのですが、支援や関係性の到達点については、意見が分かれるというより、不十分さが優っている。これらを簡潔にお話ししたいと思います。

各事業の方向性について

まず、事業展開について、４つの部門に分かれて実施していますが、日中活動支援部門について、福祉作業所の時代から始まり、今は生活介護事業を選択して１月には定員数で 208 人の事業規模となった。「はなみずき」の開設は、受け皿としての役割だけでなく、既存事業の改善が多く期待されている。既存事業の小規模化、給食等の食品生産の衛生・設備の改善、メンバーの工賃の改善（給食の授産事業化）、直売所の設置等、諸々である。小規模化は最終的には、街中の小さな活動規模までもっていくことを目指しているが、何時になることやら。2021 年は枚方市での施設整備が待っている。

次に、児童通所支援部門（児童発達支援・放課後等デイサービス）、あっという間の７年ですが、なかなか、採算の取れる（食べていける）ベースにたどり着けない課題がある。１事業 10 名定員での運営でなければ、運営が難しい。職員配置等で３事業所の単独化が目標となる。市内には多くの事業所が開設され、そういう中でどのように運営し、展開していくのかが問われ続けている。

次に、地域生活支援部門のグループホーム（GH）は、22 ホームに定数 107 人が暮らす場となっている。３月に大和に１棟完成する。消防法問題（スプリンクラーの設置義務）から建物を建築しなければならない状況となり、2015 年からは建物ばかり造っている状況です。建物ができると生活が変わることもある。バリアフリーや広々感やゆったり感、フラワーホームを始めた 1996 年からは考えられない住まいとなった。と思いきや、終の棲家と言われる場としても考えなければいけない状況が進んでいる。医療との連携が緊急課題となっている。本当は、一人住まいや結婚生活、シェアハウス、いろんな形態が展開されたらいいのですが、待ったなしで今、何ができるのか。2021 年は生活の充実を、と考えてるが、そうともいかない現実が迫るかもしれない。短期入所も３か所となり、ＧＨの体験や緊急時対応を考えてきて、受け皿整備の先を考えようとしている。

就労・相談支援部門は、就労支援の制度変更が続く中、苦戦というか、方向が定まらない状況となり、事業の維持と共に再編成に取り組んでいる。相談支援は、メンバーの地域生活の要となる事業、共に歩むワーカーが育つことと、１か所の休止を再開させる必要があり、配置等の計画が進んでいる。これも、形より中身が問われる。居宅支援は本来、地域生活支援であるが GH にとらわれない展開として相談の中に位置づけている。何とか人員の配置を乗り超え、多くのメンバーの地域生活と結びつく可能性を更に伸ばしたい。そして、若者サポートステーションが加わって２年。専門性の充実というより、これほど多くの期待（利用）が、まだ、地域の中にあることと、そのことへの寄り添いの必要を教えられている。

「居場所づくり」と言われる取り組みを、こども食堂を含め各所で試みを行っているが、まだ、全貌が見えないというのが実感である。

人材確保から支援の質の向上へ

事業の展開を保障するのが人の確保であり、これは、現在の事業が共通して持つ課題です。まず、そこをクリアしないと次の、働く場としての改善へと進めない。そして、働く場の余力が「支援」の改善を進める原動力となり、運営を担う世代が育ち、新たな事業を展開する・地域の中で力を発揮する・メンバーの地域生活を豊かにする、流れを創る必要がある。これは、直線的でも、積み上げ方式でも、まして計画通りでも、うまくいかない状況となっている。この中で、「支援の改善」を進めようとしている。何が「改善」なのか、悩ましい問題もある。「虐待認定」を事業が受ける事態が続いている。一からの関わりの問題である。「支援」など烏滸がましい状況が一方であり、当然、職員の意識も絡んでいると思う。「キラッと輝く」が今年のテーマだったが、輝きを放つメンバー・職員は、少なかったかな。でも、歩みを止めないで進んでいくしかないことが現場の実感でもあり、有難いことだと思う。「関係発達」を軸に支援を考え直すことを行ってきた。精神医学、心理学、心理療法、援助論、当事者研究、たこの木クラブ、ベテルの家等の投げかける問題・課題を考えてきた（個人的には、明治維新や戦後思想の課題に捕らわれている）。法人の共通の課題にまでは至る状態ではないが、「事例検討」や「個人面談」等を通して、何とか壁に穴を開けようとする取り組みが、自主的に行われた。「支援」や「組織」や「運動」と言ったものが、職員の中に肥やしとなって蒔かれている。

簡単ではあるが、個人的な現状についての認識をお話したが、皆さんのご教授をいただきながら、今後の花の会を考えていきたいと思います。

（文責　山田　義昭）

花の会の報告

新　年　のご挨　拶

～「花の会」より ～

あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃より花の会活動にご理解とご協力を賜り、有り難う御座います。

さて、昨年の１月に神奈川県で新型コロナウイルス感染症の１例目発生をテレビのニュースで知りました。その後、２月にダイヤモンド・プリンセス号でクラスター発生、７月から第２波、年末は第３波のまっただ中、感染経路も初めの頃と異なり感染経路不明、高齢者感染の割合増加や家庭内感染が多くなってきました。花の会でもワーカーの感染が報告されました。幸いにして濃厚接触者と判定されたワーカー、メンバーがＰＣＲ検査の結果、陰性で事なきを得ました。

現在、誰が感染してもおかしくない状況下にあり余談を許さない状態が続いています。特に高齢者の感染者増加や家庭内感染拡大が気になるところです。家にいる時は誰もがマスクを外すのが一般的だと思うので、自分だけ気を付けていればということが成り立たなくなっています。そのため、家族全員の感染予防のための統一したルール作りと実行が求められ、本当に厄介な世の中になってきました。副作用のないワクチンの開発が待ち遠しい限りです。

政府、自治体の呼びかけに応じて、感染予防のため大勢での集会自粛により、定例会、総会の中止、バザー等のイベントが中止になり、メンバーの楽しみが無くなりました。

コロナ禍での集会やイベントの対応策も見いだせないまま１年が過ぎてしまいました。

今年も今まで経験したことの無いコロナ禍での総会や定例会等の開催のあり方やイベント開催、或いはイベントに変わる行事等、模索しなければなりません。

課題は、会員の皆様の大半が高齢者であることや基礎疾患を患っている方もおられ、対応に苦慮するところです。また、バザー中止によるメンバーの給料財源をどのような方法で確保するかです。

役員会開催もままならない状況ですが、役員一同はメンバーのために知恵を絞り、解決策を見いだしたいと思っています。諦めないで頑張りますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。取り組みについて皆様からのアイデアやご提案を期待しています。お知恵をお貸し下さい。牛嶌事務長（第２共働舎花の会・連絡先：072-697-7033）迄お願いします。

最後に会員の皆様のご健康を祈念し、私のご挨拶とします。　（花の会代表　上田 充孝）

～「家族会」より ～

新年あけまして おめでとうございます。

家族会の皆様、いつも家族会の活動にご参加ご協力いただきましてありがとうございます。

昨年は、コロナ禍におきまして、花の会の行事、家族会の行事が相次いで中止になるという、今までに体験したことのない年となりました。今年も昨年に続き、まだ先が見えない状況にありますが、そんな中にも、「はなみずき」がいよいよ今月から始動するという、嬉しいこともあります。

家族会におきましては、会員の方々の高齢化も進んでいる深刻な課題もありますが、心も体も無理なくお互いに協力し合い、寄り添っていかれる中に、ひとつの輪へとつながっていくのだと思います。

会員の皆様の一人ひとりの個性を生かして、今以上に素晴らしい花の会の家族会へと発展されますように、願います。そして令和３年が、花の会の皆様にとって明るくよき年になりますように心よりお祈り申し上げます。

（家族会会長　小原　紀子）

～「後援会」より ～

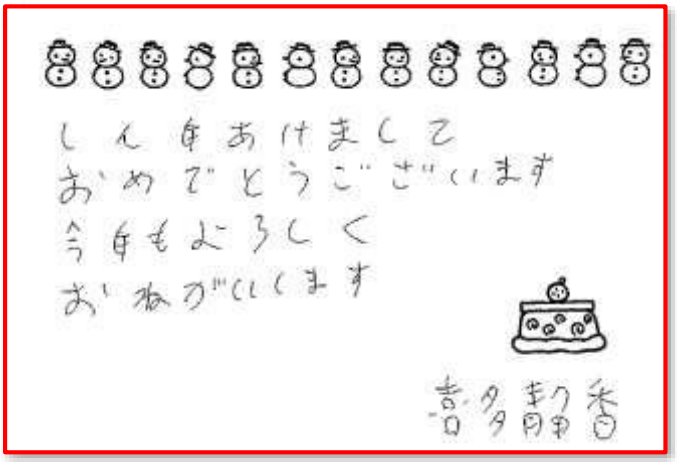
引き続くコロナ禍の中で新年を迎えました。人の世のあり方を深く考えさせられる年になりそうです。今年もまたメンバーやご家族、また職員の方々の生きていく営みは続きます。いまの世相が陥りがちな「内向きな暗さ」に反発するエネルギーを大切にし、今年も花の会とともに元気に活動を進めていきたいと念じております。

新しく「はなみずき」と「ひらかた　くすの木」が開所、花の会が地域に広がり、着実に根を張っていくことを嬉しく思います。また、こんな時こそ「花の会」の今までの来し方を振り返り、行く末を想い、「花の会」の原点を確かめ合うことが大切ではないかと思います。

我が家のユズの木が昨年も豊かに実りました。花の会のメンバーが２度にわたってユズ収穫に来てくれました。それぞれのメンバーの「個性的」？な所作、仕事を終えた後の気楽な雑談のひと時、私はその中に身を置きながら、改めてメンバーが「働く」ことの意義を感じとっておりました。またメンバーに寄り添う職員の方々への感謝の気持ちも膨らみました。花の会には伝統的に自立を目指し共に助け合う空間があり、それが花の会の魅力です。「はなみずき」も「ひらかた　くすの木」も、共に働き、学び、生きることを具現化する大きな前進基地になると思います。

2021 年が花の会にとってよい年になりますように。　（後援会会長　堀田　和喜）

～「みんなの会」より ～



みんなの会代表　喜多 静香

第 171 回 花の会定例会の中止について

2020 年 12 月 20 日（日）に開催予定であった第 171 回花の会定例会ですが、新型コロナウイルス感染予防のために残念ながら中止となっています。

今年度は、コロナの影響で６月に開催予定であった第 37 回花の会総会・交流会が中止となり、12 月に入ってからの全国的なコロナ第３波の感染拡大と高槻市における感染者数の情勢を見て、中止とせざるを得ませんでした。

この１年は、各部会や検討チームでの打ち合わせや活動ができていない状況が続いていますが、かねてからの課題である会員の高齢化やコロナ禍における新たな課題などに対して、花の会としてどう取り組むのか？検討する必要があります。コロナ禍で制限されることはありますが、少しでもできることはないか、皆さんのご意見を頂きながら活動再開を目指していきます。　（花の会事務長　牛嶌　亮）

活　動　報　告

	花の会			法人			日中活動		
11月	9	月	役員会	6	金	事務局会議	4	水	企画会議
				16	月	事務調整会議	5	木	メンバー給料日
				17	火	運営協議会	11	水	全体調整会議（分会）
				20	金	事業運営会議	14	土	秋祭り（内部）
				21	土	理事会	15	日	花の会バザー（中止）
				25	水	虐待防止委員会	18･19		事業所別会議
12月	20	日	第171回花の会定例会（中止）	4	金	事務局会議	2	水	企画会議
				12	土	はなみずき竣工式	4	金	メンバー給料日
				16	水	事務調整会議	11	金	メンバーボーナス支給日
				18	金	事業運営会議	12	土	クリスマス会
									はなみずき竣工式
							16	水	全体調整会議（分会）
							23･24		事業所別会議
							24･25		はなみずき内覧会
							28	月	大掃除　忘年会
									(メンバー健康診断実施)
							29～1/3		冬休み
‘21年１月				8	金	事務局会議	4	月	仕事はじめ
				16	土	事務職員研修	5	火	メンバー給料日
				22	金	事業運営会議	6	水	企画会議
						理事会(書面)	9	土	はなみずき開所式
				30	土	職員全体会議（中止）	13	水	全体調整会議（分会）
							20･21		事業所別会議
							30	土	人権研修

	地域生活			就労・相談			児童支援		
11月	6	金	運営会議	9	月	運営会議	11	水	児童部門会議・研修
	13	金	身体拘束・行動制限廃止検証会議	10	火	主担会議	18	水	人権・権利擁護研修
	17	火	事例検討会						
	24	火	企画調整会議						
	27	金	内部研修（動画配信）						
12月	4	金	運営会議	2	水	運営会議	11	金	高槻事業所連絡会（児童部会）
	11	金	身体拘束・行動制限廃止検証会議	9	水	主担会議			
	21	月	事例検討会						
	23	水	企画調整会議						
	25	金	内部研修（動画配信）						
	29～1/3		冬休み						
‘21年１月	8	金	運営会議	6	水	運営会議	13	水	児童部門会議・研修
	15	金	身体拘束・行動制限廃止検証会議	12	火	主担会議	27	水	人権・権利擁護研修
	18	月	事例検討会						
	28	木	内部研修（動画配信）						
	29	金	人権研修						

「公益信託　近藤きよ子記念福祉基金」助成金により取得した印刷機を使用して印刷された出版物です

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円